

〔科目名〕 現代仕事論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 赤坂道俊	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義終了後、昼休み 場所: 講師控え室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 仕事(労働)をすることは人間の基本的な営みである。だが、そのあり方は、経済・社会システムの変化と、それに伴う企業環境や労働環境の変化と共に変容してきた。日本の労働環境は戦前と戦後で大きく変わったが、戦後においても、高度経済成長の終焉以降、労使関係や国の政策の変化(福祉国家の修正、市場原理主義の台頭、規制緩和の拡大等)によって労働環境は変容し、1990 年のバブル経済の崩壊後にそれはさらに大きく変化した。 今日では、ITC 技術革新や交通革新が企業活動のグローバル化を加速させたが、これと、新興国の経済発展は企業間競争を激化させ、企業はそれまでの雇用戦略を変更した。こうして、国による労働分野の規制改革にも後押しされて、雇用は多様化した。今日では、戦後労働改革と高度成長期に形成された日本の雇用慣行は大きく変容し、非正規雇用の増大とそれに伴う新たな雇用格差が生まれ、戦前日本企業にあった身分制も復活し、格差社会が拡がりつつある。近年、人々の働き方、企業の「働き方」には大きな変化が生じている。 本講義では戦後日本の雇用慣行の形成とその変容、1970 年代以降の労働分野の規制緩和と雇用の多様化、非正規雇用の増加とその問題点、労働者派遣業の解禁とその問題点について講義し、他方で、正規社員の絞り込みとホワイトカラーの労働環境の変化等について講義し、現代日本における仕事(労働)のあり方について考えていく。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 1. 雇用、労働のあり方は現代社会の中心的问题であり、経営学、経済学における中心的テーマの一つでもある。 2. 現代社会は企業社会でもある。労働・雇用問題を学ぶことは現代社会の核心を認識することにつながる。 3. 多くの学生は卒業後、企業で働く。企業で働き、社会人になる学生諸君が自らの立場と「働くことの意味」を認識することは重要である。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 企業社会における労働のあり方と働くことの意味を知る。(最終目標) 2. 日本の雇用慣行の変容と労働者の状況の変化を知る。 3. 現代日本の雇用の多様化＝非正規労働の増加と課題について学び、また、女性労働の社会的課題について学ぶ。 4. ホワイトカラー労働者の状況と「過労死」問題について学び、あるべき働き方(働き方改革)について考える。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 専門的な事項、用語について丁寧な説明を心がける。 2. 講義の重要ポイントについて理解されたかどうかその都度、確認する。 3. レポート課題、小テストを実施し、学生諸君の自主学習を促す。		
〔教科書〕 講義プリントを配布する。		
〔指定図書〕 講義の際に紹介する。		
〔参考書〕 ①野村村正美『終身雇用』岩波書店、1994。②森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』ちくま新書、2009 年。③森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015 年。④熊沢誠『能力主義と企業社会』、1997 年。⑤森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書、2005 年。⑥ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』2006 年、岩波新書。⑦戸塚他編『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房、1993 年。⑧濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書、2012年。		
〔前提科目〕 経営学、経済学。		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末テストの成績と課題レポート、小テストの成績で評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 期末テストの成績(80%)と課題レポート、小テストの成績(20%)で評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 労働社会を取り巻く「現実」や「現象」の本質を明らかにするように講義したい。 学生諸君には物事を深く考える習慣を身につけて欲しい。新聞やTVのニュースを見る習慣を身につけ、経済、企業経営、雇用、労働者の現状に関心を持って欲しい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 講義ガイダンスと日本的雇用慣行とその変容 内 容: 講義のガイダンス(講義の目的、概要、評価などの説明)。 社会の発展と労働観の変化。日本的雇用慣行とその変容。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 日本的経営と三種の神器 内 容: 終身雇用、年功賃金、企業別組合。終身雇用の再定義。 教科書・指定図書: 上記、①、⑥の参考文献の他、佐藤光『入門日本の経済改革』PHP新書、1997年も参照。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 戦前日本の労働者の状態と戦後「労働改革」 内 容: 戦前(1945年以前)の労働者の状態。「戦後改革」と労働三法の制定。高度経済成長と終身雇用。 教科書・指定図書: 上記、参考文献の他、戦前については中村正則『労働者と農民』小学館、1990年も参照。
第4回	テーマ(何を学ぶか): 戦後日本の労働者の状態: 大企業の雇用慣行と中小企業の雇用慣行 内 容: 大企業と中小企業の雇用慣行。下請制度と企業規模別賃金格差。 教科書・指定図書: 上記、参考文献、特に③、⑦を参照。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 1973年石油危機と低成長-雇用の流動化: 非正規労働の増加とパート労働の状況 内 容: 低成長と雇用流動化=非正規労働の増加。経団連の雇用政策。雇用形態の多様化と雇用の不安定化。パートはどのように増えてきたか=パート労働の状況。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に①、③を参照。また、中野麻美『労働ダンピング』岩波新書、2006年も参照。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 低成長と非正規労働の増加とパート労働、女性の労働の状況 内 容: 正規・非正規(パートタイム)の賃金格差。日本的性別分業とM字型カーブ。性別賃金格差と課題。

	教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に②、③を参照。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 雇用の規制緩和と派遣労働 (その1) 内 容: 戦前の「派遣業」＝口入れ屋、手配師と女工。今日の派遣会社と派遣労働者。戦後労働改革と労働者供給事業の禁止。労働分野の規制緩和-労働者供給事業の解禁。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に③を参照。また、戦前については、前掲、中村『労働者と農民』と犬丸義一校訂『職事情』(上) 岩波文庫、1998 年が有益。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 雇用の規制緩和と派遣労働 (その2) 内 容: 1980 年代半ば以降の雇用の規制緩和と派遣労働 -派遣労働解禁の背景成不況とリーマンショック下の派遣切り、派遣労働の問題点の表面化。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に③、⑦を参照。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 雇用の規制緩和と派遣労働 (その2) 内 容: 雇用関係からみた派遣という働き方。労働者派遣制度の本質的特徴。派遣労働: 「登録型」と「常用型」。非正規労働者・派遣労働者の「2018 年問題」。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に③を参照。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働 (その1) 内 容: 低成長と労働の規制緩和(雇用流動化)＝非正規労働の増加と正社員の長時間労働。労働時間の制限と短縮の歴史。日本の労働時間規制の歴史。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に⑤を参照。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働 (その2) 内 容: 市場原理主義と規制緩和論。経団連の雇用政策。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 労働時間規制と規制緩和 内 容: 現行の労働時間規制と現状。労働時間の規制緩和の歴史。変形労働時間制、裁量労働時間制 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。また、八代尚宏『雇用改革の時代』中公新書、1999 年も参照。
第13回	テーマ(何を学ぶか): 現代日本のホワイトカラーの状態 内 容: ホワイトカラーは増えているか。成果主義の導入。過労死と労災認定。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に②、⑦を参照。また、熊沢誠『能力主義と企業社会』1997 年、同『働き者たち泣き笑顔-現代日本の労働・教育経済社会システム』有斐閣、1993 年も参照。
第14回	テーマ(何を学ぶか): ホワイトカラーと過労死問題。働き方改革について 内 容: 過労死と過労自殺。過労自殺とホワイトカラー。教師の労働環境の悪化とうつ病。医療現場の長時間労働。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に②を参照。また、川人博『過労自殺』岩波新書、1998 年も参照。
第15回	テーマ(何を学ぶか): 現代日本の労働、雇用の課題-講義のまとめ 内 容: 正規労働者の課題。非正規労働の増大と最低賃金制度の役割。 コロナ渦の労働＝雇用へのインパクト。テレワークと「JOB 型労働」の検討と評価。 教科書・指定図書: 上記、参考文献、特に⑧濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』2021年を参照。また、佐藤彰男『テレワーク「未来型労働の現実」』岩波新書、2008 年も参照。
試験	試験期間(最終講義日)に筆記試験を実施する。持ち込み不可。試験時間: 60 分。